

松浦 馨教授 略歴・教育研究業績目録

略 歴

昭和四年六月
昭和一七年三月
昭和二一年三月
昭和二四年三月
昭和二六年一〇月
昭和二七年三月
昭和三〇年三月
昭和三一年七月
昭和三三年一月
昭和三七年三月
昭和三九年八月
昭和四一年五月
昭和四三年四月
昭和四五年四月
昭和四七年一月
昭和四七年四月

徳島県板野郡藍園村（現藍住町）に生まれる
徳島県藍園村立奥野尋常高等小学校卒業
徳島県立徳島中学校卒業
第三高等学校文科甲類卒業
司法試験合格
東京大学法学部法律学科卒業
東京大学大学院研究奨学生（民事訴訟法）前期終了
名古屋大学法学部助手に任せられる
名古屋大学法学部助教授、あわせて名古屋大学大学院法学研究科民事法専攻課程担当を命ぜられる
法学博士の学位を受ける（名古屋大学）
海外研修のためドイツに出張
名古屋大学法学部教授に任せられる
日本民事訴訟法学会理事を委嘱される
法制審議会幹事に任せられる
司法試験（第一次試験）審査委員に任せられる
名古屋大学評議員に任せられる

昭和四九年一月
昭和一一年二月
昭和五五年四月
昭和五六年六月
昭和六一年四月
平成三年二月
平成四年六月
平成五年四月
平成五年五月
平成六年四月
平成八年四月
平成八年六月
平成一二年一月
平成一四年四月

法制審議会民事訴訟法部会委員及び法制審議会強制執行制度部会委員に任ぜられる
 学術審議会専門委員（科学研究費分科会）に任ぜられる
 名城大学法学部長に任ぜられる
 名古屋弁護士会資格審査委員会委員を委嘱される
 日本民事訴訟法学会監事を委嘱される
 名古屋繊維取引所紛争仲介委員会委員を委嘱される
 財団法人民事紛争処理研究基金選考委員会委員長を委嘱される
 名城大学法学部法学科教授、名城大学大学院法学研究科法律学専攻（M合
 民事訴訟法特論、D合民事訴訟法特殊研究担当）に任ぜられる
 名古屋大学名誉教授の称号を与えられる
 国際商事仲裁協会商事仲裁研究所運営委員長を委嘱される
 日本ローエイシア友好協会顧問を委嘱される
 財団法人民事紛争処理研究基金理事を委嘱される
 名城大学評議委員を委嘱される
 名城大学法学部特任教授に任ぜられる

教育研究業績書（但し、本学就職年・平成五年以降）

著書（四）

基本法コンメンタール民事保全法 共編著 平成五年二月 日本評論社

民事保全法のコンメンタール 共編著…三宅弘人、松浦馨

著書（五）

注解民事保全法上巻 共著 平成八年六月 青林書院

民事保全法のコンメンタール 編著…竹下守夫、藤田耕三
 共著者…江口とし子、佐藤公美他多数

著書（六）

新民事訴訟法講義 共編著 平成一〇年四月 有斐閣

民事訴訟法の体系書 共編著者…中野貞一朗、鈴木正裕、松浦馨

著者（七）

現代仲裁法の論点 共編著 平成一〇年五月 有斐閣

現代仲裁法の当面する各種論点を

著書(八)

倒産手続と保全処分

共編著

平成一一年六月

有斐閣

取りあげて論じたもの
共編著者・青山善充、松浦馨

学術論文(三九)

占有権移転禁止の仮処分に関する
残された課題

単著

平成五年三月

民事訴訟雑誌三九
号

新民事保全法上の占有移転禁止の
仮処分に関する未解決の理論的・
実務上の課題を上げ検討したも
の

学術論文(四〇)

「処分の制限」と民法一七七条

単著

平成五年四月

鈴木祿彌先生古稀
記念民法学の
展開

処分禁止の仮処分の基礎理論的研
究

学術論文(四一)

民事訴訟とは何だろうか

単著

平成五年四月

判例タイムズ八〇
六号

民事訴訟の目的についての考察

学術論文(四二)

請求異議の訴え(二)

単著

平成六年三月

民事執行法判例百
選(別冊ジュリス
ト一二七号)

最大判昭和四〇・一二・二二民集
一九九二二七〇の批判

学術論文(四三)

東南アジアの商事仲裁

単著

平成六年三月

国際商事仲裁協会
委託研究論文

香港・シンガポール・クアラルン
プールの商事仲裁制度の実態調査
に基づく調査研究

学術論文(四四)

民事保全法の制定を顧みて

単著

平成六年五月

木川統一郎博士古
稀祝賀
民事裁判の充実と
促進

民事保全法による保全制度改革の
成果と将来の課題について総括し
たもの

学術論文(四五)

仲裁研究会「仲裁法試案」の特徴
と問題点

単著

平成六年七月

NBL五四九・五
五〇号

著者もそのメンバーの一人である
仲裁協会研究会が一九八九年に発
表した仲裁法試案について紹介・
刊行したもの

学術論文(四六)

韓国国際商事仲裁制度の概説

単著

平成六年九月〜平

JCAジャーナル

韓国の国際商事仲裁制度を概観し、

学術論文(四七)

中国の国際商事仲裁の現状と課題

共著

平成六年一月

四一巻九・一〇・

その現状を紹介するとともに、そ

学術論文(四八)

中国の国際商事仲裁の現状と課題

共著

平成六年一月

国際商事法務

中国の国際商事仲裁制度を紹介す

学術論文(四九)

信義則

単著

平成七年七月

別冊法学セミナー

信義則に関する学説・判例の解説

学術論文(五〇)

将来の不法行為による損害賠償請

単著

平成七年一月

中野貞一郎先生古

テーマに関する判例・学説を概観

学術論文(五一)

民事保全法制定の意義と将来の課

単著

平成七年二月

竹下・鈴木編

平成元年に制定された民事保全法

学術論文(五二)

民事保全の基本構造

単著

平成八年二月

中野・原井・鈴木

民事保全のうち、通常民事保全と

学術論文(五三)

民事保全の区別、略式訴訟の

編

中野・原井・鈴木

特殊民事保全の区別、略式訴訟の

学術論文(五四)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(五五)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(五六)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(五七)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(五八)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(五九)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(六〇)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(六一)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(六二)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(六三)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(六四)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(六五)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(六六)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(六七)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(六八)

民事訴訟法

編

中野・原井・鈴木

民事訴訟法

学術論文(五三)	A Comparative Survey of International Commercial Arbitration in Japan, China and Korea	単著	平成九年二月 (一九九七)	Festschrift für Gerhard Lüke zum 70. Geburtstag	民事保全講座一巻 特徴、通常民事保全の基本原則と基本構造について説明する
学術論文(五四)	香港仲裁法の沿革	単著	平成八年十一月	民商一一五巻二号	日本、中国と韓国の国際商事仲裁制度を比較し、その重要な相違点を取りあげ、論評したもの
学術論文(五五)	香港仲裁法の特徴と問題点	単著	平成八年二月、 平成九年三月	民商一一五巻三・ 四・五・六号	香港がイギリスの属領となった一八四二年以降今日に至る香港法の沿革を明らかにする
学術論文(五六)	仲裁の機能と限界	単著	平成一〇年三月	JCAジャーナル	現行の香港仲裁法を通観して主にわが国の仲裁制度、ことに仲裁法の改革の視点から、その特徴と問題点を取りあげて論評する
学術論文(五七)	マレーシア仲裁法の特徴と問題点	単著	平成一〇年三月	判例タイムズ NO. 九六一、八六 (一)〜四二(四五) (四五頁)	仲裁の長所と短所、短所の克服方法について論及
学術論文(五八)	新少額訴訟制度の趣旨・目的と性質並びに若干の問題点について	単著	平成一〇年九月	司法研修所論集一 〇〇号一九九八 (九八年九月) 四五 七八(三四 頁)	マレーシア仲裁法の比較法的研究、特に日本の仲裁法改正の視点から検討
学術論文(五九)	わが国における国際仲裁の活性化	単著	平成一一年四月	白川和雄先生古稀 記念集刊行委員会 編	標題のとおり
管見					

民事紛争をめぐる
法的諸問題、信山
社（二二頁）

学術論文（六〇）

倒産手続きと保全処分

単著

平成二一年六月

松浦馨、伊藤真編
倒産手続きと保全
処分、有斐閣（六
八頁）

わが国の各種倒産手続きについて、
現行法制の概観とその問題点を明
らかにするとともに、それについ
ての改正提案を試みる

(名城 '03) 52 - 2・3 - 326

学術論文（六一）

通常民事保全訴訟の訴訟物

単著

平成二二年二月

原井龍一郎先生古
稀祝賀「改革期の
民事手続法」六四
二頁、六八二頁、
法律文化社（四一
頁）

標題のとおり

二頁、六八二頁、
法律文化社（四一
頁）

学術論文（六二）

日本の仲裁法及び仲裁規則の特徴
と改正問題について 国際商事仲

単著

平成二二年二月

名城大学法学研究
科・社会経済紛争

標題のとおり

裁を中心に（日本リージョナル
レポート）

研究所刊アジア・
オセアニア国際商
事仲裁シンポジウ
ム その展望と比
較 リージョナル
レポート等総合論
料集（二〇〇〇年
一四、二四・二三
頁）
田中千鶴編

学術論文（六三）

Characteristics of and Problems
Associated with Revising the
Japanese Arbitration Law and
Arbitration Centre Rules with
Emphasis Primarily on Interna-
tional Commercial Arbitration
(Japanese Regional Report)

単著

平成二二年二月
(二〇〇〇)

Institute for
Socioeconomic
Dispute
Studies, Meijo
Univ. Graduate
School of Law

The Symposium of International
Commercial Arbitration in Asia-
Oceania Region Prospects and
Comparison Consolidated Ma-
terials (February 22,23,2000 Na-
goya, Japan) (82pages)

52 - 2・3 - 327 (名城 '03)

学術論文(六四)	単著	平成十二年一月	Institute for Socioeconomic Dispute Studies, Miho Univ. Graduate School of Law	The 2 nd symposium of International Commercial Arbitration in Asia-Oceania Region Revision Problems Associated with the Arbitration Laws Consolidated Materials (November 25, 26, 2000 Nagoya, Japan) Only Its Parts of Main Discussion is translated in English (34pages).	(名城 '03)
仲裁法上の保全処分制度について (立法論)	単著	平成十二年二月	名城法字五〇巻別冊(法学部創立五〇周年記念論文集)(六八頁)	標題のとおり	
その他(一〇)	共著	平成九年一月	第四章、第一節前註及び六一〜七〇条注釈(一四三〜	共著者：日比野泰久 松浦馨	
基本法コンメンタール新民事訴訟法 (分担執筆)	共著	平成九年一月	一五五頁) 日本評論社(二三頁)		
その他(一一)	共著	平成一〇年三月	国際商事仲裁協会	共著者：金祥洙、松浦馨	
仲裁邦語文献目録追補(二)	共著	平成一〇年三月	私法判例リマークス一九九八(下)	標題のとおり(判例批評)	
その他(一二)	単著	平成一〇年七月	一五四頁〜一五九頁(六頁)		
法律行為の法令違反等と公証人の調査義務	単著	平成一〇年七月	ジュリストNo.114	標題のとおり	
その他(一三)	単著	平成一〇年二月	四七、七二頁〜七四頁(三頁)		
法制審議会の特質並びに若干の改善私見について	単著	平成一〇年二月	ジュリスト増刊一九九九・一一	新民事訴訟法について、その立法・解釈・運用をめぐる諸々の問題点を取りあげて研究・討議したものを	
その他(一四)	共著	平成一一年一月			
研究会 新民事訴訟法	共著	平成一一年一月			

その他(一五) 単著 平成二年二月 JCAジャーナル 標題のとおり

「国際商事仲裁フォーラム99」について感想」 五―一七〇―七 二頁(三頁)

その他(一六) 単著 平成二年二月 学術論文(六二) 標題のとおり

「日本における最近の仲裁法改正の動向及び国際商事仲裁実務の現状」フォーラムプレゼンテーション(日本)

その他(一七) 単著 平成二年二月 学術論文(六二) 標題のとおり

「日本の仲裁法及び仲裁センターの規則の改正問題について」セミナープレゼンテーション(日本)

その他(一八) 共著 平成二年二月 名城大学法学研究 共著者：岩崎一生、貝瀬幸雄、科・社会経済紛争 Luke Notlage、田中信幸、松浦研究所 馨

「各国・地域の仲裁法の特徴と改正問題に関する Questionnaire 回答旨比較一覧」

その他(一九) 単著 平成二年六月 三宅省三、塩崎勤

法解民事訴訟法(第六一条)第

一三二条(分担執筆)

小林秀之編集代表 第一―四条、第一―三条前註、四―二頁、四―二頁、青林書院(九頁)

その他(二〇)

「仲裁判断取消請求の理由がある場合における、仲裁廷への差戻しの裁判を可能にするための立法提案について」セミナープレゼンテーション(日本) 単著 平成二年二月 名城大学法学研究 科・社会経済紛争 研究所刊第二回アジア・オセアニア国際商事仲裁シンポジウム 仲裁法の改正問題 リーショナルリポート等総合資料集(二〇〇一年一月二五・二六日、名古屋開催)(七頁) 標題のとおり

その他 (一一一)	単著	平成二二年一月	学術論文(六四)の「発行所、発表雑誌等」及び「概要」のところに記載されたものと同じ	その他(二〇)と同じ内容(八頁)
"Proposal for Legislation to Enable the Remission of the Arbitral Tribunal When Grounds for Setting Aside the Award are Established" Paper for Presentation (Japan)	その他(一一一)			
「仲裁と仮救済措置」セミナー プレゼンテーション(日本)	単著	平成二二年一月	同右	標題のとおり
「Arbitration and Interim Measures of Protection" Paper for Presentation (Japan)	単著	平成二二年一月	同右	その他(一一一)と同じ内容(一六頁)

小早川 義則教授 略歴・著作目録

略 歴

一九三九年（昭和一四年）二月四日
一九六四年三月
一九六六年三月
一九七七年三月
一九七七年四月
一九七九年四月
一九八六年四月
一九八八年五月
一九九一年四月
一九九二年三月
一九九三年六月
一九九六年四月
二〇〇二年三月
二〇〇二年四月

大阪市内にて出生
大阪外国語大学イスパニア語学科卒業
大阪市立大学法学部卒業
大阪市立大学大学院法学研究科博士課程満期退学
名城大学法学部法学科講師
名城大学法学部法学科助教授
名城大学法学部法学科教授
ニューヨーク・ロー・スクール客員研究員（一九九〇年五月まで）
名城大学大学院法学研究科法律学専攻（M） 刑事法特論担当
大阪市立大学博士（法学）
名城大学協議員（三期連続、一九九九年三月まで）
名城大学大学院法学研究科法律学専攻（D） 刑事法特殊研究担当
依頼退職
桃山学院大学法学部教授、名城大学名誉教授

著作目録

一 主要著書

共犯者の自由 成文堂 一九九〇年
 ミランダと被疑者取調べ 成文堂 一九九五年

二 分担執筆著書

判例コンメンタール (高田卓爾編) 三省堂 一九七七年
 ワークブック刑事訴訟法 (光藤景皎・田宮裕編) 有斐閣 一九七九年
 判例による刑事訴訟法入門 (共著) 青林書院新社 一九八一年
 ホーンブック刑事訴訟法 (田宮裕編) 北樹出版 一九八一年
 新演習法律学講座・演習刑事訴訟法 (高田卓爾・田宮裕編) 青林書院新社 一九八四年
 刑事訴訟法一〇〇講 (庭山英雄・森井暉編) 学陽書房 一九八六年
 ワークブック刑事訴訟法「新版」(光藤景皎・田宮裕編) 有斐閣 一九八九年
 総合研究「被疑者取調べ」(井戸田侃編) 日本評論社 一九九一年
 ホーンブック刑事訴訟法「新版」(田宮裕編) 北樹出版 一九九三年
 基本法コンメンタール刑事訴訟法「第三版」(高田卓爾編) 日本評論社 一九九三年
 新判例コンメンタール刑事訴訟法(2) (高田卓爾・鈴木茂嗣編) 三省堂 一九九四年
 基本問題セミナー刑事訴訟法 (川端博・田口守一編) 一粒社 一九九四年

刑事訴訟法 (渥美東洋編) 青林書院新社 一九九五年
 目撃証言の研究 (渡辺保夫監修) 北大路書房 二〇〇一年

三 論文等

イギリスにおける共犯者の供述 大阪市大 法学雑誌 一八卷二号 一九七一年
 アメリカにおける共犯者の供述 大阪市大 法学雑誌 二〇卷一号 一九七三年
 共犯者の自由 (一 三・完) 大阪市大 法学雑誌二〇卷四号、二二卷二号 一九七四年
 利益に反する供述 大阪府大 法学雑誌 二二卷二号 一九七五年
 共犯者の供述 (一 二・完) 刑法雑誌 二二卷一号、二号 一九七六年
 不利益な事実の承認 (一) 名城法学 二七卷三、四号 一九七八年
 違法収集証拠をめぐる下級審判例の動向と最高裁判決 ジュリスト 六七九号 一九七八年
 共犯者の自由 ジュリスト増刊・刑事訴訟法の争点 六七九号 一九七九年
 被告人の黙秘権 別冊判例タイムズ 七号 一九八〇年
 刑事訴訟法三二八条の法意 Law School 二八号 一九八一年
 強制採尿をめぐるアメリカ法の動向 矢野勝久教授還暦祝賀・現代における法と行政 名城法学 三一卷一号 一九八二年
 配偶者の証人適格 名城法学 三一卷一号 一九八二年
 刑事訴訟法三二八条の法意 名城法学 三三卷一号 一九八三年
 精神状態の供述 名城法学 三三卷一号 一九八三年
 ミランダ判決の一五年 名城法学 三三卷三、四号 一九八三年

コンスピラシーにおける共謀者の供述(一)	三・完	名城法学	三三卷丁四号	一九八四年
共犯者の自白と刑事上の利益に反する供述		名城法学	三四卷一〇四号	一九八四年〇八五年
不一致供述と伝聞法則(一)	四・完	名城法学	三五卷一〇四号	一九八五年〇八六年
犯人識別供述と伝聞法則		名城法学	三六卷別冊	一九八六年
自動速度監視装置による写真撮影の合憲性		ジュリスト	八六一号	一九八六年
覚せい剤事犯の多発化と刑事訴訟法理論(共著)		刑法雑誌	二七卷二号	一九八六年
犯人識別供述をめぐる		名城法学	三六卷三号、四号	一九八七年
米連邦最高裁判例の動向(一)	二・完	判例タイムズ	六二一、六二四、六四一、六四二、六四三、六四四、六四一、六四二、六四三、六四四	一九八六年〇八七年
共犯者の自白について(一)	六・完	名城法学	三七卷別冊	一九八八年
弾丸摘出手術の適否		名城法学	三七卷二号〇〇卷三号	一九八八年〇九一年
排除法則と『不可避的発見』の例外(一)	九・完	名城法学	四一卷一〇四号	一九九一年
声紋鑑定をめぐるアメリカ法の動向(一)	四・完	ジュリスト増刊・刑事訴訟法の争点(新版)		一九九一年
訴追免除		高田卓爾博士古稀祝賀・刑事訴訟の現代的動向		一九九一年
排除法則と『独立入手源』の例外		名城法学	四二卷一号	一九九二年
「レーガン・コート」について		名城法学	四二卷丁四号	一九九三年
弁護人依頼権放棄をめぐる		名城法学	四三卷一〇二号	一九九三年
米連邦最高裁判例の動向(一)	三・完	福田平「大塚仁博士古稀祝賀・刑事法学の総合的研究(上)」		一九九三年
ミランダ判決の二五年				
弾劾例外をめぐる米連邦最高裁判例の動向				
被疑者取調べと黙秘権(一)	二・完	名城法学	四三卷三号、四号	一九九三年〇九四年
ミランダの矛盾		大阪市大 法学雑誌	四〇卷四号	一九九四年
ミランダ違反供述と人身保護令状による救済		森下忠博士古稀祝賀・変動期の刑事法学(上)		一九九五年
ミランダとテリーとの交錯		名城法学	四五卷一号	一九九五年
一致供述の許容性		名城法学	四五卷二号	一九九五年
自白排除法則の現状と展望		佐伯千仍先生卒寿祝賀・新・生きている刑事訴訟法		一九九六年
共犯者の自白と利益に反する供述		鈴木義男先生古稀祝賀・アメリカ刑事法の諸相		一九九六年
アメリカにおける面割り・面通しの法制度		季刊刑事弁護	一一号	一九九七年
ポリグラフ検査について		名城法学	四八卷二号	一九九八年
デュー・プロセスの再構築		ジュリスト	一一四八号	一九九九年
犯人識別供述をめぐるアメリカ法の動向(一)	四・完	名城法学	四七卷三号〇四九卷二号	一九九七年〇九九九年
黙秘権行使と不利益推認の禁止		井戸田侃先生古稀祝賀・転換期の刑事法学		一九九九年
国選弁護人制度		現代刑事法	二卷五号	二〇〇〇年
共犯者供述の信用性に関する考察		季刊刑事弁護	一四号	二〇〇〇年
共犯者の自白と証人審問権		梶田英雄「守屋克彦判事退官記念・刑事・少年司法の再生」		二〇〇〇年
米連邦最高裁ミランダを再確認		現代刑事法	二卷一〇号	二〇〇〇年
ミランダ判決の意義と限界		名城法学	五〇卷別冊	二〇〇〇年
排除法則と『稀釈法理』の例外(一)	三・完	名城法学	五〇卷一〇二号、一〇三、一〇四、一〇五、一〇六、一〇七、一〇八、一〇九、一〇一〇、一〇一一、一〇一二、一〇一三、一〇一四、一〇一五、一〇一六、一〇一七、一〇一八、一〇一九、一〇二〇、一〇二一、一〇二二、一〇二三、一〇二四、一〇二五、一〇二六、一〇二七、一〇二八、一〇二九、一〇三〇、一〇三一、一〇三二、一〇三三、一〇三四、一〇三五、一〇三六、一〇三七、一〇三八、一〇三九、一〇四〇、一〇四一、一〇四二、一〇四三、一〇四四、一〇四五、一〇四六、一〇四七、一〇四八、一〇四九、一〇五〇、一〇五一、一〇五二	二〇〇一年

毒樹の果実排除と反覆自白の許容性
 ポリグラフ検査と黙秘権（共著）
 訴追免除
 毒樹の果実
 逮捕・勾留の現状と課題
 効果的弁護の懈怠とその判断基準
 排除法則とハームレス・エラーの法理
 デュー・プロセスをめぐる
 合衆国最高裁判例の動向（一）
 合衆国最高裁判例の動向（一）五）

光藤景皎先生古稀祝賀論文集（下巻）
 名城法学 五一巻四号 二〇〇一年
 ジュリスト増刊・刑事訴訟法の争点〔第三版〕
 ジュリスト増刊・刑事訴訟法の争点〔第三版〕
 現代刑事法 五巻二号 二〇〇二年
 栗城壽夫先生古稀祝賀
 名城法学 五二巻二二号 二〇〇三年
 名城法学 四九巻三号～五二巻四号 二〇〇〇年～〇三年
 桃山法学 創刊号 二〇〇三年

四 判例評釈等

職務質問に伴う所持品検査
 共犯者の自白と補強証拠
 刑事法三二八条と回復証拠
 違法収集証拠の証拠能力
 共犯者の自白と補強証拠
 違法な別件逮捕と勾留留置問
 共犯者の自白と補強証拠

同志社法学 一五巻四号 一九七四年
 ジュリスト 六四二号 一九七七年
 ジュリスト 七一八号 一九八〇年
 名城法学 二九巻一・二号 一九八〇年
 別冊ジュリスト・刑事訴訟法判例百選〔第四版〕
 月刊法学教室 四〇号 一九八四年
 別冊ジュリスト・刑事訴訟法判例百選〔第五版〕 一九八六年

搜索令状執行の適法性
 強制採尿の適法性
 会話録音の適否と声紋鑑定・言語学鑑定の証拠能力
 事実の取調べと破棄自判
 強制採尿令状による強制連行の適否等
 呼気検査
 宿泊を伴う長時間の取調べと自白の信用性
 検証令状による電話傍受の適否
 DNA鑑定の証拠能力
 接見交通権の日時指定の違法性

ジュリスト 八八七号 一九八七年
 別冊ジュリスト・憲法判例百選〔第一版〕 一九八八年
 ジュリスト 九八〇号 一九九一年
 別冊ジュリスト・刑事訴訟法判例百選〔第六版〕 一九九二年
 判例評論 四四三号 一九九六年
 別冊ジュリスト・刑事訴訟法判例百選〔第七版〕 一九九八年
 判例評論 四八六号 一九九九年
 ジュリスト 一一七九号 二〇〇〇年
 月刊法学教室 二四七号 二〇〇一年
 判例評論 五一〇号 二〇〇一年

自己に不利な配偶者の証言排除の特権
 ミランダ判決にいう取調べの意義
 ミランダ警告の告知順序
 不可避的発見の判断基準
 ミランダ違反供述と人身保護令状による救済
 被疑者の一時拘束後のミランダ警告の必要性
 被疑者取調べと弁護人立会権
 共犯者の自白と証人審問権

アメリカ法 一九八二年号 一九八二年
 アメリカ法 一九八三年号 一九八三年
 アメリカ法 一九八四年号 一九八五年
 アメリカ法 一九八八年号 一九八八年
 アメリカ法 一九九五年号 一九九五年
 アメリカ法 一九九六年号 一九九六年
 別冊ジュリスト・英米判例百選〔第三版〕 一九九六年
 アメリカ法 二〇〇〇年号 二〇〇〇年

五 書評・演習・その他

ドイツ自然法学と構成要件論の発展 (著書)	自然法の研究	五号	一九七二年
ラテンアメリカ模範刑法典の刑罰と保安処分 (論文)	立命館法学	一一三号	一九七四年
自己帰罪 (拒否) 特権の起源 (著書)	大阪市大 法学雑誌	二二巻四号	一九七六年
世界の未決拘禁法 スペイン (論文)	法律時報	四九巻一〇号	一九七七年
宣誓拒否の問題点について (論文)	竜谷法学	一一巻三号	一九七八年
カナダにおける自由の許容性 (著書)	名城法学	二八巻三〇号	一九七九年
カナダにおける補強法則 (著書)	名城法学	二九巻四号	一九八〇年
域外裁判管轄権と連邦刑法典草案 (論文)	警察研究	五二巻八号	一九八二年
答弁取引論争 (論文)	アメリカ法	一九八三年 号	一九八四年
ミランダ 犯罪、法および政治 (著書)	アメリカ法	一九八六年 号	一九八六年
アメリカ刑事訴訟法 (著書)	アメリカ法	一九九一年 号	一九九一年
アメリカ刑法学史 (著書)	法律時報	六四巻六号	一九九二年
共犯者の自由 (著書)	季刊刑事弁護	八号	一九九六年
新たなミランダ論争の展開 (著書)	アメリカ法	二〇〇〇年 号	二〇〇〇年
演習刑事訴訟法	月刊法学教室	二〇〇三六号 (各偶数号)	一九八二年、八三年
判例演習刑事訴訟法等	法学セミナー	四四九、四五九号 (各月号)、 四六三、四六八、四八三号	一九九二年、九五年
共犯者の自由	司法試験シリーズ刑事訴訟法「新版」 (光藤景皎、井戸田侃編)	日本評論社	一九八五年
新法学辞典 (天野和夫ほか編)	司法試験シリーズ刑事訴訟法「第三版」 (光藤景皎、井戸田侃編)	日本評論社	一九九〇年
共犯者の供述 (一)(二)	ジュリスト	九六一号	一九九〇年
ベルリンの壁	現代刑事法	三巻一号	二〇〇一年
座談会 『ミランダの射程 ディカソン判決の意義と日本法への示唆』	名城法学	四二巻一号、五二巻四号	一九九二年、二〇〇二年
ニューヨーク日記 (一) 九・完			